

J Aあしきた青壮年部活動報告

J Aあしきた青壮年部は、令和2年現在、田浦・芦北・津奈木の3支部、41人で構成し、部員の多くが柑橘農家となっており、平均年齢は36・9歳と若者のエネルギーを活かして様々な活動を行っています。

青壮年部活動については、稼げる農業の実現と、地域農業の活性化を目指し、積極的な活動を行っています。

地域農業の拡大に貢献

J Aあしきたの主要農産物は、デコポンや甘夏などの柑橘類です。田浦支部では毎年、柑橘の苗木約2500本をビニールハウスで約6か月間育て、8月に大きくなった苗木を管内の柑橘生産者へ配布します。

しっかり苗木を育ててから園地に定植することで、生産の効率化と、未収益期間の短縮を図っています。このような青壮年部の活動が、地域農業拡大のための大きな支えとなっています。



▲柑橘大苗を配付する青壮年部員

地域の食育活動

津奈木支部では女性部と協力して、毎年中学生を対象に農業体験学習会を開いています。耕作放棄地となっていた農地を、青壮年部が寒漬け大根の栽培農地として活用し、中学生に収穫、掛け干し、寒漬け大根の調理を体験してもらいます。

調理学習では女性部による指導の下、地域農産物を利用したさまざまな料理作りを学習します。

こうした活動を通して、生徒たちは



▲津奈木中学校での農業体験学習会

農産物を育ててから商品として販売されるまでの過程を学び、少しでも農業に興味を持ってもらうことで、将来の農業の担い手確保につながると考えています。

研修会で農業経営技術を磨く

管内で優秀な経営実績をあげている農家を講師に招き、研修会を開催することで、品質や作業効率の向上、コスト削減の方法などを学習します。

仲間と一緒に学び合うことで、農業技術の向上を図っています。



▲農業技術研修会での視察

未来に向けて新たな活動を模索

年に2回開くJ A常勤役員、女性部との意見交換会では、それぞれの組織の活動を報告し合い、これからの地域や農業の発展のために取り組んでいくべきことを話し合います。

労働力不足や鳥獣被害問題など、小さな組織では解決が難しい問題には、知恵を出し合い、協力しながら取り組んでいきます。



▲JA常勤役員・女性部・青壮年部による意見交換会

